

友の会だより

孺恋郷土資料館

2011年12月26日

No.12

友の会村外研修

安中市歴史散歩 中山道の宿場と文化財を訪ねて



旧信越本線の碓井第3アーチ「めがね橋」
アーチ橋だ。

「資料館友の会」の村外研修「安中市の歴史を訪ねる旅」が12月10日、資料館の松島榮治名誉館長を講師に、滝澤仲二館長のほか、友の会の有志多数が参加して実施された。

この日朝9時前に資料館を出発した一行は、国道18号線を遡り、碓氷峠を下ってまず訪ねたのは旧信越本線の碓井第3アーチ、通称「めがね橋」。英国人技師パウネルによって設計され明治25年に完成したこの橋、実は、我が国最大の煉瓦造り

さらに峠を麓に下れば、中山道は「坂本宿」。上州七宿のうち、安中市には「板鼻」「安中」「松井田」と、この「坂本」の四宿がある。江戸を起点とする五街道のうち江戸と京都を結ぶ海側の東海道に対し、山側を通るのが中山道。多くの旅人で賑わった宿場の名残が感じられる。当時の面影を残す「かぎや」は旅籠建物の代表的なもののひとつ。郷里の信州柏原と江戸を行き来したとき俳人の小林一茶が定宿としたのが「たかさごや」。重厚感漂う当時の建物群が見る人を圧倒する。



坂本宿の旅籠「かぎや」

次に、訪ねたのは、東海道は箱根の関所と並び称「碓井の関所」。徳川幕府により現在地に設置され（1623年）のこと。参勤交代が行われるようにな



碓氷の関所跡

される、中山道たのは天和9年ると、幕府は「入

続いて、「五料の茶屋本陣」を見学。江戸時代、参勤交代などで通行する大名や公家が休息したところである。宿場ごとにあつた本陣、脇本陣などとは違い、宿泊施設はなく、昼食時や休憩時に使われたという。昼食のあと午後は、旧安中藩郡奉行役宅と道を挟んで隣接する地に復元されている同武家長屋も見学。



旧安中藩郡奉行役宅

最後に訪れたのは「安中市学習の森 ふるさと学習館」。安中市内で大切に保管されてきた指定文化財に焦点を当てた企画展「ふるさとの至宝—安中市の文化財—」が開催中であった。展示物中、孺恋郷土資料館友の会のメンバーにとって特に興味深かったのは、天明の浅間山焼けに関する曾根家古文書「信濃国浅間山大変日記」だった。絵入り日記の同文書は、関係古絵図、古文書を収集している資料館としては、「ぜひとも写真撮影がしたい」と、そんなことを語り合いながら学習館を後にした。 (by ガンビー)

ボランティアガイドに「ありがとう！」

村の外交の最前線とも自負する「孺恋郷土資料館」。ここにボランティアガイドが誕生して3年。メンバーは、全国各地から訪れる来館者に、村の歴史や火山災害の凄まじさ、防災意識を高めていくことの大切さを語り、さらに孺恋村の自然の豊かさ、素晴らしさを訴えながら、ようやく「館内の説明も板に就いてきた」という評価がいただけるように。メンバー



も「来館する皆さんと、少しはスムーズにコミュニケーションがとれるようになったかな…」と語る。今年は、そんなメンバーの自負心を裏付けるように、各地から様々な形で感謝やお礼の声が届くようになった。また、来館者が残していった資料館備え付けのアンケート用

紙にも、嬉しいお褒めの言葉が目立つ…

このうち10月19日に来館した東京都北区の星美学園小学校からは、「子ども達は、鎌原で起きた出来事を知り、浅間山をはじめとする自然が、恵みを与えてくれるだけでなく、時に甚大な被害を人間にもたらすこと、また、人間はその困難をも乗り越え、発展できることを学びました」との礼状を添えて、当日案内したガイドの藤原英三郎さん、坂岡士朗さん、表谷斎さん各自に、子ども達のお礼の言葉や、感想を記した文集が送られてきた。



千代田小学校からのお礼状

10月25日に資料館を訪れた千代田区立千代田小学校からは、「お礼状 孺恋郷土資料館の皆さんへ」と題して「孺恋村には（浅間山の噴火災害という）すごい歴史があるなと思いました」（5年生男子）。「ガイドさんの説明で“協力”と“きずな”で鎌原が復興したというのが心に残っています」（5年生女子）などといった感想文集が。

これらに対して、ボランティアガイドをはじめ、資料館職員一同、「かえって、私たちが感動し、勇気をいただいております」「むしろ、こちらから子どもたちにお礼のエールをおくりたい」と、感謝の気持ちを込めて語っている。 (by ガンビー)

今年もあと僅かとなりました。みなさん、良いお年をお迎えください。



全国各地から感謝の声や手紙が！